

アシモフ『ロボットと帝国』の あらすじ

takaidos

ロボットと帝国

アシモフ。

ロボット・シリーズ第五弾。

1985年発行。

<目次>

第一部 オーロラ

- 1.末裔
- 2.先祖
- 3.危機
- 4.もう一人の末裔

第二部 ソラリア

- 5.見放された世界
- 6.クルー
- 7.監督

第三部 ベイリ・ワールド

- 8.植民国家(settler world)
- 9.スピーチ
- 10.スピーチのあと

第四部 オーロラ

- 11.オールド・リーダー
- 12.計画と令嬢
- 13.テレパシー・ロボット
- 14.対決

第五部 地球

- 15.聖なる世界
- 16.シティ
- 17.暗殺者
- 18.第零法則
- 19.ひとりぼっち

(解説/牧眞司)

<登場人物>

Rダニール・オリヴォー:ヒューマンフォーム・ロボット。

Rジスカルド・レベントルフ:テレパシー・ロボット。メタリック・ボディー。

グレディア・グレミニオス:ソラリア出身の未亡人。230歳。白髪があり身体は部分的に人工物。

イライジャ・ベイリ:地球の私服刑事。79歳で160年前に逝去。

ケルドン・アマディオ:オーロラのロボット工学研究所所長。280歳。

ファン・ファストルフ:オーロラのロボット工学研究所の元所長。360歳。

レヴェラー・マンダマス:同所員。グレディアの五世代下の子孫。40歳。

DGベイリ:貿易商人(トレーダー)。イライジャの7世代下の子孫。39歳。神経鞭を持つ。

ヴァジリア・エイリアナ:ファン・ファストルフ博士の娘。ロボット工学者。逝去。

エドガー・アンドレフ:地球の総務長官。

ソフィア・クインタナ:地球のエネルギー省次官。

ジャミン・オウサー:DGベイリの地球船の副長。

チャンドラス・ナディルハバ:同ナビゲーター。

エバン・カラヤ:同通信担当。

バート・ニス:同船の一等航海士。野卑。

ランダリー:ソラリアのヒューマノイド・ロボット。グレディアのかつての館にロボットの監督として残っていた。

ジェノバス・パンダラル:ベイリ・ワールドの五人制執行部委員長。優柔不断。

リジフォーム艦長:オーロラ戦艦でDGベイリの商船を追う。

ソフィア・クインタナ:エネルギー省次官。

エドガー・アンドレフ:地球の最高行政長官。総務長官。

<あらすじ>

地球から宇宙にハイパージャンプ技術で乗り出して、そこで住環境を作り、高度なロボットを従えて長寿命(400歳)を達成した宇宙人。

それに対して地球に残って80億人もの人口を抱える地球人。

地球には800のシティ(鋼鉄都市)があり、一つには平均1千万人の人間が住んでいた。

地球人イライジャ・ベイリは160年前に死亡した。

その後、地球はオーロラのロボット工学研究所所長のファン・ファストルフの主導の下、銀河系の各惑星への植民を進めて、宇宙国家連合を凌ぐ植民国家連合を形成しつつあった。

しかしそのファストルフも死に、ダニールとジスカルドの二体のロボットはグレディアに仕えていた。

そこに、ロボット工学研究所所員のレヴェラー・マンダマスが現われ、グレディアに自分にはベ

イリの血が混じっているのではないか、と言う。

グレディアは『夜明けのロボット』事件の5年後、オーロラの軌道上でベイリと密会していたのだ。

しかしグレディアは息子も娘もベイリの子では無いと言い切る。

レヴューはもしベイリの子孫であれば所長のアマディロの不興を買い出世の道は断たれるという。

グレディアは自分とベイリの子孫はいないときっぱりと否定する。

ダニールとジスカルド。

ジスカルドは自分には人の心を読み、精神に作用する能力はあるが、直観力はない。

ベイリを見習って何度も試したがダメだった。

それは不条理なもので、自分の能力は条理だけという。

ファストルフが宇宙国家連合代表として、地球を訪れた時の記憶を憶い出した。

ファストルフは地球上の病原菌の感染しないように、嚴重に身体を防護して地球に降り立ったが、ほかの宇宙人は追隨しなかった。

また地球ではロボット排斥運動が起こっていたので、人間そっくりの高度なロボット・ダニールは地球周回軌道に残った。

ベイリの息子ベントリイはすでに他の惑星に移民していた。

ベイリはジスカルドに心配事を漏らす。

地球人だけ宇宙に植民・拡散して、スパーサー(宇宙人)だけそうしないとなるとスパーサーは衰退してしまう。

(→しかし元々地球人が宇宙に拡散して宇宙国家連合になって高度な科学文明に発展したのだから、スパーサーがそれをしないはずはないと思うのだが。)

ジスカルドはダニールに、ファストルフとアマディロの会談について思い出す。

地球人口80億人、スパーサー55億人。

地球人とスパーサーの遺伝子とははや別物で、地球人は毎年1.6億人は宇宙人類を送り出すことが可能だった。

地球人はスパーサーの惑星から20光年以内に入らない惑星にどんどん植民して植民国家を築いていた。

ジスカルド地球人の宇宙への危機感を少し緩めて、スパーサーの外へ出たくないという気持ちを少し強化しただけという。

ファストルフはかつての意見を逆に曲げ、アマディロに遅くはないから、スパーサーも他の惑星への植民の努力をすべきだと主張した。

しかしアマディロらスパーサーは地球人を蛆虫のように考え地球人とスパーサー両方の衰退を危

惧し、地球人は両方の繁栄を考えていた。

ジスカルドは結局、地球が銀河帝国を築くよう促したという。

しかし一方、ジスカルドとダニールはマンダマス博士がベイリ子孫でないことを確信して、地球に危機もたらすようなことを企んでいると推理する。

グレディアは、イライジャの7世代下の貿易商人を務めるセトラー、DGベイリが訪ねて来たので会う。

彼はソラリアからスペーサーが居なくなってしまったが、2隻の商船が降りたら2隻とも「スペーサーが来る」と言い残して破壊されてしまったという。

地球はソラリアに軍事基地を置け、という意見も出ているが、自分はソラリア人のグレディアにいっしょに来てもらって行ってみたいという。

ダニールとジスカルドもいっしょに連れて行くことになる。

グレディアはソラリアに到着後、外に出してみる。

匂いが記憶を呼び戻した。

そこへ船員たちが来てグレディアに無礼な振る舞いをするが、ダニールが一等航海士ニスをねじ伏せて事無きを得る。

DGベイリは4人の船員とニス嚴重注意をして給与の一部を没収する。

DGとグレディア、ダニールとジスカルド四人はかつてのグレディアの館に近付き、残っていたロボットと話をする。

すると、ロボット監督のランダリーが現れるが、ランダリーはダニールとDGをロボットと言って破壊しようとする。

ダニールはグレディアの命令でブラスターでランダリーを破壊しようとするが外見が全く人間だったため遅れを取り、ブラスターを奪われてしまう。

しかしグレディアの命令には従おうとし、やがて機能停止してしまった。

DGはロボットが運んでいた核反応増強装置(核融合反応を増幅させる)二機を船に回収する。

ダニールはソラリア人の残したヒューマノイド・ロボットのランダリーがグレディアの命令に従おうとしたのはソラリア人以外の侵入者を抹殺しようとしたからに違いないという。

ジスカルドは身を楯にしたグレディアの勇気を認めろ、とDGに主張する。

ダニールとジスカルドはランダリーの行動を分析して再びロボット三原則の限界について議論する。

そしてオーロラのアマディオたちが作ったヒューマノイド・ロボットたちが失敗したとは聞いているものどこへ行ったのかに思い至る。

反地球、反植民国家のアマディオは地球に送り込んで地球破壊を企んでいるのではないかと疑い

始める。

惑星ベイリ・ワールドに到着して、グレディアはセトラ(地球からの植民者)数千人の前でスピーチをさせられる。

演説ステージはフォース・フィールド・カーテンに防護されていた。

グレディアが「私たちはスペーサーもセトラも地球からの同胞」というのに対して、女性議員のシンドラ・ランビッド54歳は「何歳ですか？」と問う。

グレディアは「量的で受動的な測り方でいうと233歳だが、3つの事件除けば比較的穏やかな人生を送って来て、そういう意味では冒険の少ない子供です。」と答える。

続いて、タカ派トマス・ビスタワンが「スペーサーは地球人を虐待して来た。」と非難を浴びせて来るが、グレディアは「今は地球人・セトラが優勢。過去自分たちが望まなかったことをスペーサーに対してしようというのなら、スペーサーが地球対してしたことも正当化してしまう。セトラはスペーサーに望んでいたことをすべきだ。」という。

グレディアといっしょにいる「ロボット・ダニールとジスカルドを見せろ」と言われると「ダニールとジスカルドがいかにもイライジャ・ベイリと活躍し、ベイリに愛されたか、ベイリ臨終の間際に最期の言葉を聞いたのもダニールだったし、ベイリとロボットの活躍によって地球人は植民国家への道を歩むことが出来たのだ」と話して喝采を浴びる。

グレディアたちは拍手喝采の中、地下の部屋に行く。

ダニールとジスカルドの会話。

ジスカルドは群衆に対峙したのは初めてだったが、新しい事を掴んだという。

「それは伝染しやすいのは理性でなく感情。

グレディアは論じ合わずに感情を動かすだろうと思う話題を選んだ。

群集の数が多ければ多いほど、人間は理性より感情に動かされやすいのかもしれない。

感情の数は少なく、理性はあまた、従って群集の行動は、ひとりの人間よりたやすく予測出来る

。

もし歴史の流れを予測する法則を見つけようとするならば多数の人間を対象にしなければならない。その数は大きければ大きいほどよい。

心理歴史学の第一法則と言ってもいいかもしれない。人間工学の鍵かもしれない。

しかし人間はおそらく自分のマインド知悉しており、他人の精神を操る方法を知っているのではないだろうか。」

オーロラから早くグレディアを返すよう要請があった。

DGベイリがグレディアをソラリアに連れて行く前からの約束だが、オーロラの要請は急いでいるようだった。

ダニールは真の狙いはソラリア人グレディアの身柄でなく、ジスカルドの精神感応能力がオーロラにも知られて、それを手に入れたいのではないかと考える。

7年前。

アマディオ360歳。

マンダマス40歳。

マンダマスはアマディオに面会を申し入れて「地球を破滅させる方法」を語る。

「この銀河系で地球ほどユニークな生態系を築いた惑星はほかにない。

もし人類のような高度な生命が宿っている星があれば、すでに自身の存在を何らかの存在を知らせようとして来ているはずだが、それもない。

ということは、地球は銀河系で唯一の、多様で高度な生命を育んだ星と考えられる。

地球には2つのユニークな特徴がある。

一つは宇宙線量が適度に保たれていること。

2つ目は月があって、地球の周りを回りながら徐々に遠ざかっていること。

地球のプレートは非常に薄く、この月の引力で引っ張られてマグマ活動を起こしている。

地表面にはウランとトリウムがある。

翻って、以前このオーロラのロボット工学研究所ではヒューマノイド・ロボットが何台も作られたと聞く。」

アマディオ「彼らは失敗作だったが保管してある。」

マンダマス「では我々は勝利できる！」

マンダマス、地球の第三の特性について話す。

マンダマスはロボット工学研究所の次期所長を約束された所員となる。

計画が成ったあかつきにはアマディオは議長になれる。

ヴァジリア・エアリアスは数年の宇宙国家連合の各惑星訪問を終え、父ファストルフが亡くなった一ヶ月後にオーロラに帰国する。

ヴァジリア→アマディオ。

各惑星は地球・セトラー打破についてはオーロラが先頭を務めれば喜んで協力するという。

ソラリアの住民についてはモニターを通じてしか会えなかった。

しかし4点のことが分かった。

- ①小型の核反応増強装置を完成したこと。宇宙戦艦に搭載できる強力な武器になる。
- ②ダニール並みのヒューマノイド・ロボットを完成していること。
- ③テレパシー・ロボットを設計していること。
- ④惑星ソラリアを放棄しようとしていること。

ヴァジリアは次期所長になりたいことと、ジスカルドを取り戻したいとアマディオに要求するが、アマディオはかわす。

ヴァジリアはアマディオを訪れ、ソラリアでの事件も過去200年余りアマディオがうまく行かなかったこともジスカルドが精神感應能力でファストルフやグレディアを守ったからではないかという。

グレディアはDGベイリと共にオーロラに戻り、アマディオや議長、議員たちにソラリアの報告をする。

そして地球に行ってみたいという。

ヴァジリアはジスカルドに自分の下に戻って来るよう説得を試みる。

ダニールはベイリ臨終の言葉「ひとりの人間はタペストリーの本の糸に過ぎない。人類全体を救え」という言葉を思い出し、「三原則の前に第零原則、人類に危害が及ばないように」という原則を考え付く。

ジスカルドは「人類のためにという願望で過去多くの犯罪、戦争が行なわれて来たのでその原則は認められない」とする。

しかし、いよいよヴァジリアが4体のロボットにダニールを破壊させようとした時、ジスカルドはヴァジリアの記憶を消し去り、寝ているグレディアを起こして、オーロラを立ち去ったのだった。

ジスカルド→ダニール

「ダニールが第零法則を心理歴史学に適用したら、という話をしたとき人間のように感じられた。そしてヴァジリアが4体のロボットにダニール破壊を命じた時にその胸奥に快感を感じ取った時、ダニールを助けて、第一原則を無視してヴァジリアの記憶を消した」

アマディオはリジフォーム艦長にDGベイリの商船を追わせ、ジスカルドを破壊しようとするがベイリの機転で退却を余儀なくされる。

ダニール、ベイリのやり方を真似て、アマディオの陰謀を暴くために、エネルギー省次官に地球のエネルギー状況を質問する。

地球:太陽エネルギーがほとんど。マイクロ融合は農業やロボットなど。

スペーサーとセトラの惑星:マイクロ融合。

核反応増強装置(トン単位)は、マイクロ融合炉を爆発させることが出来る。

核分裂エネルギーは以前地球では使われていたが、もう使われていない。それであるならば、石油か木を燃やす方がましで、礼儀正しい社会ではウランという言葉はタブー。

アンドレフ総務長官はグレディアに群衆の前で演説してくれるように頼む。

演説台にダニールとジスカルドとグレディアは立つが、そのとき群衆中からブラスターが発射

され、ダニールは間一髪でジスカルドを助ける。

そしてブラスターを放ったロボットを連行してグレディアに尋問させるが、ロボットは機能停止してしまう。

ダニールはジスカルドに「アマディオたちは地球上のウラン、トリウムを核反応増強装置で爆発させて汚染しようとしているにちがいない」と語る。

ダニールとジスカルドはクインタナに暗殺ロボットの最期の言葉「マイル」を伝えると、彼女は「スリーマイル島」という。

そこはかつて事故を起こして、人が立ち寄らない地域になっていた。

ダニールとジスカルドはそこが彼らの基地と予測し、クインタナにエアカーで連れて行ってもらう。

そこでは地球をゆっくり放射能汚染にしようとしていたマンダマスと、あと地球人を殺してあと数十年で地球を滅ぼしたいアマディオがいて、アマディオがマンダマスにブラスターを突きつけていた。

ダニールはブラスターを取り上げ、ジスカルドは彼の記憶を消去する。

しかしマンダマスは地球人が地球から銀河系へ拡散するのを早めるとして、ついに核反応増強装置のスイッチを押してしまう。

ジスカルドは地球人が銀河系へ拡散し、銀河帝国を築くというマンダマスの考えを止めることは出来なかった。

ジスカルドは精神感應能力のプログラムをダニールに移植し、機能停止した。

かくして、ダニールは三原則と第零法則と精神感應能力を持ったロボットになった。

<メモ>

オーロラ

ソラリア

地球

ベイリ・ワールド

ヘスペロス

ネクソニア